平和大使新聞

令和3年度
宜野湾市平和大使
宜野湾中学校
1年　仲村 将琴

沖縄1の激戦地 嘉数高台

嘉数高台が激戦地になったわけ

嘉数高台の構造

嘉数高台には、トーチカや陣地壕など戦時に使われたものがたくさん残っており、高台だけではなく周辺の民家のかべにもたくさんの弾痕など残っています。

展望台は戦後世界平和を願う地球儀をイメージして作られました。

他にも戦闘を物語る弾痕の塀や沖縄戦でなくなった集落住民の「嘉数の塔」や「京都の塔」などの慰霊碑が多数点在しています。

激戦地になったわけ

米軍は嘉数高台を2日で制圧し通過する予定だったものが2週間もかかったのにはわけがあります。

米軍が日本兵の自爆攻撃を予想していなかったことや、自然の要塞とまでいわれた険しい崖地帯に陣地構築がなされたために激戦地になり両軍共に多くの尊い命を失ってしまいました。

米軍は嘉数高台のことを「死の罠」や「まやしい兵だと恐れられていました。

日本兵の自爆攻撃とはいえ、それは、たこつぼ作戦といい穴をほった地面に爆弾をもった兵士が入り戦車がきたときに自分の命もろともふきとばすという非情な作戦だったと言えます。

嘉数集落の住民と日本兵の関係

集落の人口は日本兵に家を提供し、住民は壕を掘るのを手伝っていました。でもそれでは住民にはデメリットしかないのになぜそのような行動を取ったのでしょうか。

朝8時から午後5時頃まで作業をしていたそうです。

集落の住民およそ半分の3分の1の人が亡くなりました。

海外の平和学習 武田一義氏の講話

今回「ペリリュー・楽園のゲルニカ」の作者である武田氏の講話を聞きました。このマンガは他の戦争について学べるものと違い多くの世代の人に戦争の実態を伝えられるマンガです。

他の戦争を学ぶ物では、辛い気持ちになり読むのをためらうものが多いためあまり学ぶものに対し真剣に取り組めないのがこんは、マンガになっていて読みやすく実際にあったことをしっかりと書きこまれていてみんな楽しく読めるので非常にいいと思います。

これを機にみなさんもこの「ペリリュー・楽園のゲルニカ」を読んでみてはどうですか。

特攻兵 特攻隊

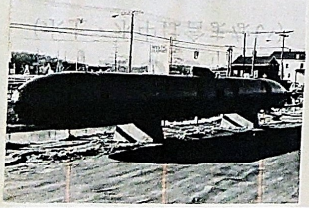
特別攻撃隊を略称して特攻隊といいます。

戦死前提の部隊のことをいい特攻には「航空特攻」「水上特攻」などいろいろな特攻が存在しました。

神風特別攻撃隊

水上特攻艇・震洋

人間魚雷・回天



2日間で学んだこと

まず嘉数の激戦地のことや、平和大使の使命を学び、国内だけではなく海外のことについても学びました。

戦時の行動や、戦闘のしかたなども学びました。

今回学んだことを周りの友達にも伝え戦争の非情さや命の尊さについて深考えを深めてほしいです。